

R7 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

自己評価実施日	R7 12/1~12/31	学校関係者評価実施日	R7 2/12
法人名		園名	
学校法人 栗田学園		幼保連携型認定こども園 ふじみ幼稚園	
第2章第2節 乳児期の園児の保育	<p>集団の中で生活をしていても、一人ひとりに対したくさんの愛情が必要な時期。目を見て表情を読み取り、日々の変化や気持ちを感じるようにしている。言葉が出たり、掴むのが上手になったり、小さな成長を嬉しく感じている。</p> <p>(評議員より) 避難訓練に泣く子どもなく、落ち着いて参加できている。0・1歳児でもしっかり座って待っていた。愛情を持って接していることがわかる。子どもたちが手を振ってくれ、人慣れしていることが嬉しく思う。いろんな先生たちがいて安心しているのだと思う。愛想がいい子どもが多く、先生たちの接し方がよいと思う。どの先生とも接する機会は大切。いろんな経験を通して愛情をもって接してくれている。</p>		
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	<p>歩くことが楽しくなり、行動範囲が広がってくる。伸び伸び体を動かして遊んでいる姿が愛らしい。まだ自己中心的で、相手の気持ちに気づけず、おもちゃの取り合いなどトラブルになることもあるが、それも1つの成長として、丁寧に対応している。毎日生活する中でお互いに愛着が生まれ、顔を合わせて笑っていたり、おもちゃを持って渡す姿を見ると温かい気持ちになる。園でいろんな経験をして欲しい。</p> <p>(評議員より) 日々の生活での経験は成長に大きく関係している。未就園児の会の時は外遊びに夢中で工作に興味を示さなかった子どもが、入園して、作品展に展示してある作品を見ると成長しているのを感じる。同じように見えるけど、1つ1つ違って、子どもの気持ちを大切にしていることがわかる。ちぎる、貼るなど、いろんな体験をしている。毎年積み重ねたものを活かしている。子どもが自分の作ったものを教えてくれた。クラスが変わったことで頑張っている様子が伝わっている。</p>		
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	<p>言葉でのコミュニケーションができ、子どもと一緒に考えたり、いろんな活動ができることに楽しさを感じる。一人ひとりの成長を身近に感じ、嬉しい反面課題も感じる。まだまだ丁寧な保育は必要だと感じる。</p> <p>(評議員より) 全体の配慮をしながら一人ひとりに声掛けをしていきたいへんだと思う。生活の基盤が1つ1つ積み重なっていく大切さを感じた。コロナの時期を経験したせいなのか、親の接し方や近所の人との関わりなど、言葉でのやりとりが少なくなっている気がする。リサイクルの時声をかけると、親が子に挨拶をするよう声をかけてくれている。</p>		
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	<p>言葉が未発達な乳児であっても一人ひとり思いはあり、一人の人として尊重し接している。健康面、安全面、衛生面など配慮することはたくさんあるが、毎日天候や行事など確認しながら対応している。集団の中では先生でも、淋しい時や体調がすぐれない時などは母親のような愛情で接することができたら心がけている。</p> <p>(評議員より) 子どもの接し方が難しい時があるが、状況を見ながら先生たちが違う見方で対応してくれる。おむつ替えもただ行うのではなく、子どもの気持ちを大切にしながら1つ1つ声をかけて行うことが大切で、一人ひとりをよく見て声をかけている。性犯罪など問題になってきている時代なので、すぐたいへんだし、配慮していると思う。私たちも小学生でハグしてくれる子がいるが、他の人からどう見られているのか心配になる時がある。</p>		
第3章 健康及び安全	<p>保健安全教育担当(健康・防犯・健康・防災)、美化担当など担当を分け、1年の計画をたてて実施している。今年は食育担当が給食事業者と連携し、魚の解体教室を行った。昨年、他園の公開保育に参加した教職員から「やってみたい」という声があり、新しい取り組みを行うことができた。また、出欠席(感染症)調べやAED確認など、各担当が毎日行っていることもある。各担当の仕事内容を知らない職員もいたので、わかりやすく表にまとめるなど全員が把握できるようにしたい。</p> <p>(評議員より) 大雨で園の前の川があふれた時など、警報や情報を収集しながら、迎えに来る保護者の安全を考えながら対応できている。津波警報が出た時、子どもたちをスムーズに送り出していた。</p>		
第4章 子育ての支援	<p>子育て支援は担任や担当だけが行うのではなく、園全体で携わっていく体制をとっている。登園降園時で気になる様子があれば、近くにいた職員が声をかけ、担任にも話をし一日の様子を見たり、預かり保育担当に一日の様子を使え、保護者に伝えるようにしている。保護者の気持ちの変化に気づいたり、身近な相談者になれるよう心がけている。</p> <p>(評議員より) 自己評価の項目で「園児の保護者に対する子育て支援」が少し低いところがあるが、周りの目よりも低く評価しているのかも知れない。アプリの連絡帳を活用しているが、文面だけでは意思疎通できないところがあるので、誤解や思い違いのないようなシステム作りや、対面での説明や話し合いも大切にしていこう。100%にならなくても100%を目指す気持ちをもっていく。保護者アンケートでは相談しやすいと答えた人が多い。未就園児の会の時、相談にのっている先生がいた。在園生の保護者から病気やけがの時すぐに園から連絡が来たという声を聞いた反面、脱臼した時に連絡がなかったという話も聞いた。</p>		
第5章 職員の資質向上	<p>毎日の保育について教職員同士が話し合うことが一番大切だと思っている。話し合う内容がより深まり、より質の高いものになるよう園内外で研修を受けている。研修により、情報が更新され、保育が活きたものになる。常にアンテナをはっていられるよう心がけている。</p> <p>(評議員より) 職員同士の話し合いの中で、厳しく言うことも大切。こうなって欲しいという気持ちも含め、相手を認める部分も伝えていく。先生たちがもっと自信をもってやって欲しい。子どもの思いをどう表現につなげていくかが大切。時間をみつけて、先生同士も保育の話をし、思いを共有していく。今年度の作品展ではBGMがあり、いつもと違ってよかった。「おうちえん」で日常の1コマを見ることができ、様子をわかりやすく知ることができた。いろんな分野で先生たちが勉強しているが、新しいものを取り入れ、発信していくことが大切。</p>		
総合	<p>今回職員の評価が低めだった「3歳未満児保育」と「健康・安全」は毎年難しいと感じている項目である。3歳未満児は自我が出るがまだ十分に言葉で伝えられず子どもの思いを理解できているか不安に感じたり、自立も個人差があり、臨機応変さが求められる。また、生活の中でヒヤリハットは常にあり、地震や津波に関しては不安が消えることはない。しかし、満足感がないからこそ常に課題を持って新しいことに取り組むことができる。最近は職員から「〇〇をやりたい」との声も出、子どもだけでなく職員の主体性も感じている。子どもたちの一番近くにいる職員の声を大切にしながら、上記の項目の改善に取り組んでいこうと思う。</p> <p>(評議員より) 保護者からの理解は十分だと思う。理解は得ているが、これからの努力も必要。職員が共通理解できているように思える。子どものこと以外も担当して業務にあたっている。「挨拶」を課題にするなら、次年度にどうしていくかを考えていくようにしていく。子どもの作品からも子どもの声を、先生たちが理解してくれているのを感じる。職員間で話し合い、課題に取り組んでいく。子どもたちは日々の生活を活かし、いろんな体験ができていく。大人も夢中になれる職業になれば、きっといい影響が出るのではないかと。学校も職場としてのシステムや時間割が更新されているのを見ると、これからの園も業務の分担、改善をしながら、園の特色を残し、子どもたちが楽しめる園となっていきたい。</p>		

内容	項目数	平均	データグラフ
「乳児保育」	15	4.87	4.20 4.40 4.60 4.80 5.00
「3歳未満児保育」	32	4.53	
「3歳以上児保育」	53	4.70	
「教育保育の配慮事項」	16	4.75	
「健康・安全」	28	4.61	
「子育ての支援」	17	4.88	
「職員の資質向上」	9	4.89	
計	170	4.70	